

地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業  
社会連携型 PBL によるディーセント・ワークの創出  
—魅力ある特産品の高付加価値化と価値ある生産活動の促進—

i. 連携している地元産業界等の組織名称

- ・株式会社 Raymaka/ZANPUP（協定書あり）
- ・津島織物製造株式会社
- ・江田島荘
- ・株式会社歴清社
- ・トーホー株式会社

ii. 当該連携事業における地域の課題

- ① 多くの就労継続支援 B 型事業所では、作業内容の単調さと低工賃のほか、利用者の多様性への対応、スタッフの人手不足、運営資金の確保、地域社会との連携や社会的認知度の低さなどさまざまな課題を抱えている。
- ② 江田島〈紙布〉は、独自の質感とデザインの多様性、希少性など多くの高付加価値を有するが、難度の高い手仕事から量産化が難しく 130 年以上続く伝統の承継という課題に直面している。

iii. ii の課題解決に向けて設定した目標

- ① 社会連携型 PBL によるディーセント・ワークの創出
- ② 魅力ある特産品の高付加価値化と価値ある生産活動の促進

iv. ii の課題の解決に向けて実施する取組の内容

- ① 就労継続支援 B 型事業所におけるディーセント・ワークの創出  
新商品の開発は、広島市内の就労継続支援 B 型事業所のうち、ものづくりを通してやりがいを感じ、利用者が無理なく「自分らしい働き方」を発見できるような支援に力を入れている事業所とともに産学官福連携で行う。〈紙布〉に加え、歴清社の〈箔押し〉・〈トーホービーズ〉など高品質の広島ブランドの端材を活用した雑貨製作を中心に、学生・アドバイザー・クリエイターの協働で「価値ある生産活動」を創出する。
- ② 「紙布スリーブ」の販路拡大と〈紙布〉の認知向上  
前年度までの活動で、伝統織物である〈紙布〉に付加価値をもたらす商品として「Reusable Sleeve＝繰り返し使えるスリーブ」を学生が考案。試作品製作、テストマーケティングによるニーズ調査を経て、アップサイクルに取り組む企業 ZANPUP と連携し、製品化が実現した。現在、圏域の宿泊施設・土産物店、ひろしまブランドショップ TAU（東京銀座）で販売しているが、当初の目標である「歴史的・文化的に優れた価値を有す

る伝統織物〈紙布〉の認知向上と圏域における経済・交流循環の活性化」は、まだスタートラインに立ったばかりである。そこで今年度は2つの〈製作体験〉を通して、さらなる販路拡大と〈紙布〉の認知向上を目指す。

1. 広島市平和記念公園レストハウス(旧大正屋呉服店・被爆建物)で国内外観光客を対象としたワークショップの実施
2. 大学内のオープンキャンパス(7・8月の全4回)で次世代を担う高校生を対象とした講座・ワークショップの実施

日本の紙文化と織物文化の融合の象徴であり、独自の質感とデザインの多様性、手工芸品として高付加価値をもち、環境にもやさしい〈紙布〉を現代に継承するべく、スリーブに続く新商品の開発に取り組む。

※本事業は令和6年度広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業の支援を受けて実施しています。